

新規事業採択時評価結果（令和2年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

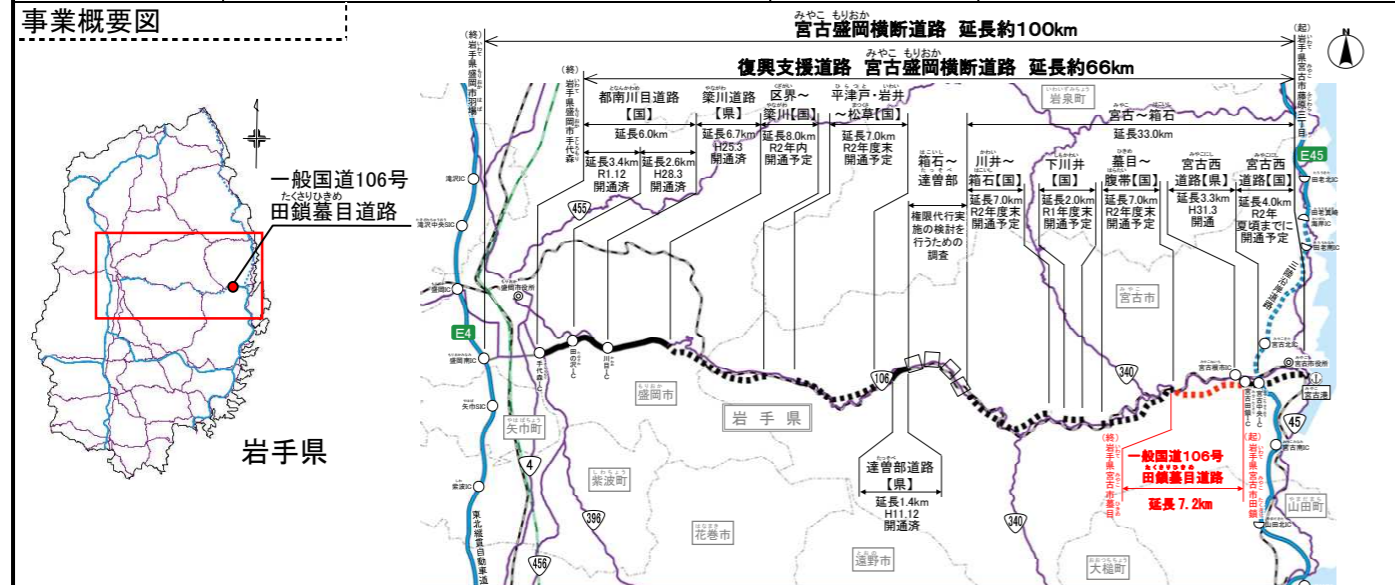
事業の概要

事業名	一般国道106号（宮古盛岡横断道路） たくさりひきめ 田鎖墓目道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：岩手県宮古市田鎖 至：岩手県宮古市墓目	延長	7.2 km		

事業概要
宮古盛岡横断道路は、岩手県宮古市から岩手県盛岡市に至る延長約66kmの地域高規格道路である。このうち田鎖墓目道路は、宮古盛岡横断道路の一部を形成し、岩手県宮古市田鎖から宮古市墓目に至る延長7.2kmの自動車専用道路である。

事業の目的、必要性
当該区間の整備により、現道の課題箇所を回避し、災害時の救援活動等においても機能する信頼性の高い道路ネットワークが確保され、第三次救急医療機関がある盛岡市への救急医療活動を支援するとともに、沿岸部と内陸部を結ぶ観光ルート形成により広域周遊観光の拡大を支援することを目的とする。

全体事業費 約300億円 計画交通量 約6,100台/日



関係する地方公共団体等の意見
【岩手県知事】
地域高規格道路である宮古盛岡横断道路（国道106号）は、三陸沿岸道路と東北縦貫自動車道を結ぶとともに、盛岡秋田道路（国道46号）と一体となり、東北地方の連携・交流の骨格となる格子状骨格道路ネットワークを構成する極めて重要な路線であり、救急医療活動の支援、広域周遊観光の拡大、さらには自然災害に強いネットワーク確保の観点からも重要な役割を担う幹線道路です。
平成28年8月の台風第10号により、根市～墓目の現道区間等をはじめ宮古市内の各地で寸断し、長期にわたる広域的な迂回が必要となり、救援活動や県民生活に多大な支障が生じたことから、災害に対する脆弱性の解消を図り、信頼性の高い道路としての整備が急務となっています。
根市～墓目（田鎖墓目）を直轄権限代行事業により、速やかに事業化を図るよう強く要請いたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
■費用対便益：便益が費用を上回っている。
■手続きの完了：岩手県によるルート帯決定（R1.8）

事業評価結果

費用対便益	B/C	5.0 (1.002)	総費用：507億円 （事業費：487億円 維持管理費：20億円）	総便益：2,539億円 （走行時間短縮便益：2,330億円 走行経費減少便益：167億円 交通事故減少便益：42億円）	基準年：令和元年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=4.8 (交通量 -10%)	B/C=5.3 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=4.6 (事業費変動 +10%)	B/C=5.5 (事業費変動 -10%)		
	事業期間変動	B/C=4.8 (事業期間変動+2年)	B/C=5.0 (事業期間変動-2年)			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	-	注目すべき影響はない。		
		事故対策	-	注目すべき影響はない。		
		歩行空間	-	注目すべき影響はない。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	・宮古地域から盛岡市の第三次救急医療機関への搬送時間を短縮。 【宮古市役所～岩手医科大学附属病院の搬送時間】 現況：115分 ⇒ 整備後：85分（約30分短縮）		
		地域経済	-	注目すべき影響はない。		
		災害	◎	・災害時の交通障害や道路寸断による広域迂回が解消。 【宮古市役所～盛岡市役所間の広域迂回（災害時）】 現況：213分 ⇒ 整備後：83分 ・災害時の孤立集落発生を解消 【孤立集落の発生（災害時）】 現況：田鎖～墓目地区間の孤立集落345世帯 ⇒ 整備後：0世帯		
環境		-	注目すべき影響はない。			
	地域社会	◎	岩手県の観光振興施策で利活用が位置づけられている新たな交通ネットワークの一部である沿岸と内陸を結ぶ宮古盛岡横断道路の更なる整備により広域周遊観光の拡大を支援。			
事業実施環境	○	・岩手県によるルート帯決定（R1.8） ・岩手県知事、宮古市長より「宮古盛岡横断道路未整備区間の早期事業化」を要望				

採択の理由

費用便益比が一体評価で5.0、個別評価で1.002と便益が費用を上回っているとともに、岩手県によるルート帯決定手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
また、田鎖墓目道路の整備により、自然災害に強いネットワークの確保、救急医療活動の支援、広域周遊観光支援などが期待でき、当該事業の整備の必要性・効果は高いと判断できる。
以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※B/Cの上段は宮古～盛岡を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。

新規事業採択時評価結果（令和2年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
当該区間の整備により、現道区間の道路寸断による孤立発生等を回避する自然災害に強い道路ネットワークが確保されるほか、救急医療活動の支援や広域周遊観光の拡大に寄与されるものである。		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	国道 106 号は岩手県の宮古市と盛岡市を最短で結ぶ幹線道路であるが、急峻な地形に加え河川が並行し、落石や土砂流出などの危険箇所が存在する。平成 28 年 8 月台風第 10 号では、道路決壊に伴う全面通行止めが発生し、沿線集落が孤立（約 3～5 日間）。全面通行止め終了後も片側交互通行規制が継続、本復旧までに約 2 年半を要し、市民生活や企業活動に影響を与えるなど脆弱な道路ネットワークが課題である。	※東北圏広域地方計画（H28.3） ・災害リスク低減のためにハード対策として、緊急輸送道路の強化、格子状骨格道路ネットワーク整備等を推進。 ※宮古市都市マスタープラン（H30.9） ・地域産業の振興、防災や救急医療への対応の観点で重要な道路は、時間短縮、渋滞緩和、交通の安全確保のため、整備促進に取り組む。 ・国道 106 号の「根市地区～茂市地区間」については、災害時等における安全な通行を確保するため、河川から離れた場所へのルート変更を国や県に働きかける。
住民生活	宮古地域には三次救急医療施設がなく、脳梗塞などの重篤患者は約 100km 離れた岩手医科大学附属病院（三次救急医療施設）へ、2 時間をかけて救急搬送が必要である。救急搬送時は速達性及び災害時にも機能する道路ネットワークの確保が課題である。	※東北圏広域地方計画（H28.3） ・東北圏では、病院や診療所が特に中山間地域や沿岸地域で不足しており口あたり医師数は全国平均を下回っている。 ※宮古市都市マスタープラン（H30.9） ・地域産業の振興、防災や救急医療への対応の観点で重要な道路は、時間短縮、渋滞緩和、交通の安全確保のため、整備促進に取り組む。
地域経済・地域社会等	岩手県では観光入込客数が伸び悩む中、復興道路等の新たな交通ネットワークを生かして外国人観光客の誘客や広域周遊観光の拡大による観光消費促進に取り組んでいるが、沿岸と県央間の横断軸観光流動が少なく、観光資源の相互連携が課題である。	※みちのく岩手観光立県第 3 期基本計画（H31.3） ・復興道路整備などによる道路網、鉄道網、海路、空路など、「陸・海・空 新観光流動」を生かして県内を周遊、滞在する旅行商品造成を促進し、2 次交通ネットワークの充実を図り、広域観光を促進する。 ・クルーズ船寄港を活用した旅行商品造成の促進や、寄港に結び付く環境整備に取り組む。
その他		

事業の有効性								
・当該区間の整備により、主要拠点間のリンクの評価は D ランクから C ランクに改善し、脆弱度も 1.00 から 0.91 に改善したことで、ネットワーク全体の防災機能が強化される。 ・また、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークが確保されるとともに、救急医療活動や広域観光振興、地域産業の活性化を支援するなど、有効性の高い事業と評価する。								
道路ネットワークの 防災機能	主な区間	改善 ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度 の変化量	改善度		評価
			整備前	整備後		通常時	災害時	
	宮古市	盛岡市	11 (5)	1.00 [D]	0.91 [C]	▲143.9 (▲12.4)	0.15 (0.04)	0.18 (0.00)

事業の効率性	
・岩手県によるルート帯決定（R 1. 8） ※道路ネットワークの防災機能の上段の値は宮古～盛岡を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象にした場合の防災機能評価結果。	